

まちを形づくるのは、風景だけではなく、そこに暮らす人の力です。この連載では、市内で活躍する方の姿をとおして、地域の魅力と未来へのヒントを探ります。

問合せ▶みとの魅力発信課(☎232-9107)

01 ひたちのくにへびがみ
常陸国蛇神伝説を伝える

あさぼうやま ふとぎ
朝房山・風土記くれふし山の会代表
かわらい ただお
河原井 忠男 さん

木葉下に伝わる蛇神伝説

木葉下町で生まれ育ち、地域の合唱団でも活躍する河原井さん。地域に残る歴史と文化を守り、次の世代へ伝えるため、長年活動を続けています。

河原井さんが朝房山に関心を持つようになったきっかけは、高校時代の恩師であり、県の民族学会の代表理事も務めた藤田稔さんから、朝房山が『常陸国風土記』に記されている「くれふし山」と教わったことでした。神の子の蛇がくれふし山で暮らしたという「くれふし山」の蛇神伝説の舞台が地元であることに、強く心を動かされたといいます。

かつて、朝房山では眺望が楽しめ、祭りが行われるなど、市外からも多く



の人が山を訪れていきましたが、昭和35年ごろから訪れる人が減り、地域とのつながりが薄れつつありました。「この山の歴史を知ってほしい」。その思いから、河原井さんは仲間とともに「朝房山・風土記くれふし山の会」を立ち上げます。

【くれふし山の蛇神伝説】
くれふし山の麓の片岡の村に住むヌカビメという女性が神の子の蛇を生み、甕に入れて大切に育てました。
しかし、日に日に大きくなる蛇を養いきれず、天の神に返そうとしたところ、怒った蛇が兄のヌカビメを殺しました。
そこで、ヌカビメが蛇を入れて育てた甕をぶつけると、蛇は神通力を失って天に昇れなくなり、くれふし山で暮らして亡くなりました。

伝説を伝える活動

会ではこれまで、勉強会や講演会、登山道の草刈りなどの活動を続けてきました。そして、平成17年、朝房山を望む眺望台を整備。令和元年には、山の歴史を伝える4基の顕彰碑を建立しました。

活動20年の節目にあたる令和5年には、記念誌を発行。記念誌には、こどもたちにも親んでもらえ



眺望台に建立した顕彰碑(谷津町156)

るよう、創作童話「くれふし山のへび神さま」を収録しました。会では、この記念誌を県内すべての小中学校と市町村立図書館に寄贈したほか、今後は市内の全市民センターにも寄贈する予定です。

河原井さんは次のように話します。「朝房山と『常陸国風土記』のつながりは、茨城の大切な宝。まずは記念誌を手にとって、朝房山の歴史や蛇神伝説について知ってほしいです。私たちはこれから、絵本童話の出版やミュージカル制作など、創作活動をおして、蛇神伝説をもっと多くの人に伝えていきたいと考えています。」

河原井さんは、これからも地域の歴史を未来へつなぐ活動に積極的に取り組んでいきます。



朝房山草刈り登山会



朝房山ハイイクでの講義



▲朝房山・風土記くれふし山の会設立二十周年記念誌